

1. 雲仙天草国立公園・雲仙地域

- ・雲仙地域は、701年に僧行基が温泉山として開山し、1300年以上の歴史を有する。
- ・雲仙普賢岳、雲仙地獄を含めた温泉を求めて多くの利用者が訪れる地域
- ・令和5年2月ゼロカーボンシティを宣言
- ・令和6年3月に九州地方ではじめてのゼロカーボンパークに登録

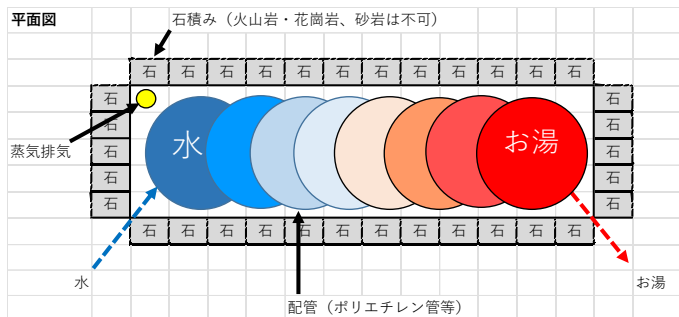


雲仙地獄の景観

2. 雲仙市のゼロカーボンパークの取組

①温泉熱を利用した脱炭素の取組

- ・爛付けによる自然エネルギーの活用、一元化による景観改善
- ＊爛付け 地熱を利用した給湯設備
- ・一部の宿では、自然エネルギー自給率50%以上目標



爛付けの取り組み

②二次交通の脱炭素化

- ・雲仙温泉街でのレンタサイクル、Eバイクの推進により二次交通のCO2排出削減
- ・紅葉時期における仁田峠の実証試験（渋滞対策、利用適正化）の実施
- ・EV充電設備の設置

③脱プラスチックの推進

- ・使い捨てアメニティをプラスチックから環境に配慮した素材へ変更（お米歯ブラシ、各種包装を紙へ変更）



お米歯ブラシ、パック包装飲料水
（ゆやど雲仙新湯HP引用）

④地産地消の取組

- ・雲仙市は食の宝庫であり、複数の宿で地産地消に取り組んでいる。
- ※一部の宿では島原半島15マイル宣言を実施（宿を中心とした半径15マイル（25km）圏内の地産を極力使用）

⑤サステナブルな観光地づくり

- ・歯ブラシリサイクルの実施
- ・生ごみ処理機器等の導入及び自社農園への堆肥利用
- ・EV駐車場利用時の駐車料無料制度

⑥サステナブルツーリズムの推進

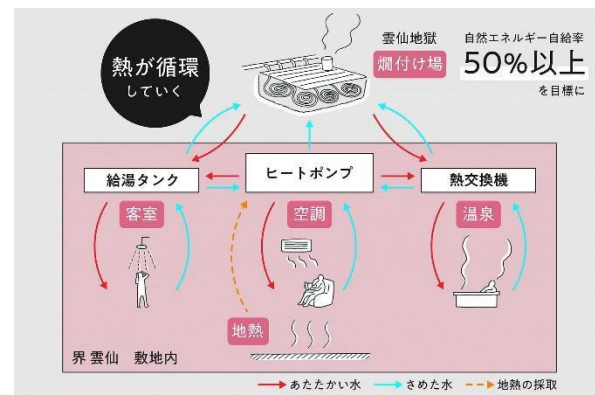
- ・エコタツ（地熱を活用したコタツ）による星空観察等の実施
- ・ミヤマキリシマ保全のための除伐、伐採木活用の検討
- ・爛付けツアーの実施（予定）

⑦普及啓発

- ・雲仙観光局が作成した雲仙温泉地区インタープリテーション計画と連携し、市HP、SNS、イベントの実施等により、各種取組について普及啓発の実施



雲仙福田屋HPより引用



界 雲仙HPより引用

3. 環境省における対応

- ・脱炭素先行地域の伴走支援
- ・雲仙地域の直轄3ビジターセンター（諏訪の池・平成新山・お山の情報館本館）のZEB化検討
- ・宿泊施設におけるサステナブルな取組を推進するための支援事業を実施
- ・雲仙天草国立公園におけるサステナブルツーリズムのあり方検討